

管内酪農場で発生した牛サルモネラ症（届出外）の早期終息に向けた取組：岡山県津山家保 横内百合香

令和6年7月、管内酪農場で発熱を主徴とした伝染性疾患疑いで病性鑑定。立入時に水様性下痢を呈する牛も確認し、鼻腔スワブ及び糞便を採材。糞便検査からサルモネラ菌の関与が強く疑われ、農場及び関係機関へ連絡。農場内の感染状況確認のため、直ちに全頭検査実施と踏み込み消毒槽設置を指導。併せて、酪農農業協同組合（酪農協）及び共済家畜診療所（共済）とで農場消毒、治療方針及び集乳順路等の緊急対策を協議し、今後の連絡体制を構築。その後、血清型別検査により *Salmonella* Newport と確定。対策会議を6回開催し、抗生物質の全頭投与、牛舎一斉消毒、生菌剤の給与及び散布等指導し実施。保菌牛のみ選抜した検査を試行。まん延防止策として近隣酪農場に向け注意喚起等チラシ配布。対策会議（計画）・対策実践（実行）・検査（評価）のPDCAサイクルを6度繰返した結果、令和6年11月に牛及び環境検査から菌は検出されず、発生から4か月で早期終息。